

大津
歴博
だより

2019
No
116

contents

特集	企画展
P1～P3	大津南部の仏像 旧栗太郡の神仏一
学芸員のノートから	廃線から50年
P4～P5	江若鉄道と大津歴博
活動報告	夏休みおもちゃづくりワークショップ&展覧会
P5	昔のくらし展
収蔵品紹介	鬼念仏藤娘図 温山良隠筆
P6	江戸時代(18世紀)



大津市歴史博物館

令和元年8月31日発行

〒520-0037 大津市御陵町2-2
TEL(077)521-2100
<http://www.rekihaku.otsu-shiga.jp/>

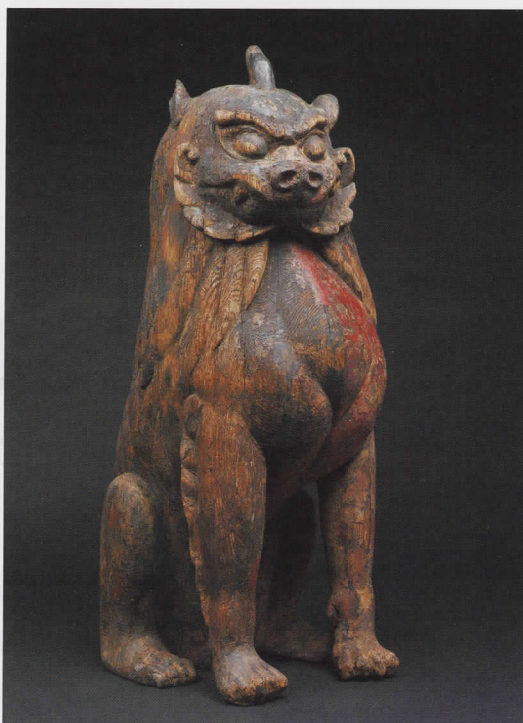


重要文化財 木造女神坐像
神領 建部大社蔵 平安時代

特集

企画展

大津南部の仏像
—旧栗太郡の神仏—



重要文化財 木造獅子 狛犬 大江 若松神社蔵 平安時代

今回の舞台は、南北に長い大津市の南部地域

イタリアの形が似ている大津市は、南北にとても細長い地域をもっています。最大の大きさでは東西20.6kmに対し南北が45.6kmですが、実際の形を見ると縦に3倍くらいは長く見えます。もともとの大津市は旧の大津百町周辺だけでしたが、琵琶湖に沿って町の合併が繰り返され、特に昭和8年（1933）には膳所町と石山町、同26年（1951）は大石村と下田上村、さらに同42年の瀬田町（同30年上田上村と合併）といった合併により、南方にかなり大きく市域が拡張しました。

大津市域は昔の郡でいえば、滋賀郡のほとんどと栗太郡の一部が含まれています。このうち栗太郡だったのは瀬田と田上、上田上、大石で、草津市や栗東市、守山市の一部と一緒にいました。膳所や石山もすぐ隣なのですが、こちらは滋賀郡です。大津市南部を流れる瀬田川を境として、西側が滋賀郡、東側が栗太郡となっているのです。なお、瀬田川は立木山付近で西に向かって流れるので、その南にある大石は瀬田川の南側になります。

今回の展覧会は、この瀬田川の近隣、旧の栗太郡周辺が舞台となります。このあたりで伝来する仏像や神像を展示する予定です。



大津市の市域と旧市町村

実はとても歴史が古い大津南部地域

淀川、宇治川、木津川とつながるこの瀬田川は、水運ルートとして飛鳥や奈良とを結ぶ人や物流の大動脈でした。さらに飛鳥、奈良の都があった時代、七道の一つ東山道（田原道）が陸路ルートとしてこの地域を通過



大津市指定文化財 埴仏断片（石居廃寺出土）
個人蔵 白鳳時代

すから、都直結の様々な歴史文化が育まれました。

特に飛鳥時代には、天智天皇によって大津の都が置かれると、近江は我が国の中心地の一つとなりました。それとない、この頃の大津市の南部地域でたくさんの寺院や神社が建立されました。また、7世紀末から8世紀にかけては、田上山や大石山の材木を飛鳥や平城京に運んでいました。そしてその基地となったのが「山作所」と呼ばれる国家機関で、田上と大石のほか、高島や甲賀もあり、石山院（現、石山寺）に集積して瀬田川経由で輸送していました。

この時期の遺物は少ないですが、田上の石居には白鳳時代（7世紀後半）に建立されたとされる寺院がありました。石居廃寺と呼ばれるこの寺院跡からは、白鳳時代の瓦や埴仏、奈良時代の塑像片、平安時代の泥塔が出土しています。なかでも埴仏は飛鳥で出土する三尊形式の一部とみられ、唐の影響で造られた様式をうまく表しているものです。

近江国の中心地、さらには山岳宗教の霊地

奈良時代、いって今の瀬田地域、近江国庁が造営され、またこの地に鎮座した建部大社は後、近江国一宮として崇敬されるなど、近江国の中心地とされていました。そして、都が平安京に遷された平安時代以降も重要な地域として見られていました。さらには秀麗な田上山をよしめとして、金勝寺のある金勝山、石山寺の伽藍山、立木観音の立木山など、山岳仏教の霊地、囲まれた地域でもありました。つま

平地と山地の双方に神社仏閣が多く造営されたため、現在でもなお古い仏像がたくさん現存しているのです。写真は大石中の若王寺に伝わる木造の如来立像です。すぐ近くには瀬田川の流れを神格化した瀬織津比売神をまつ佐久奈度神社があり、本寺はかつてその神宮寺であったといわれています。程よい重量感とやや浅く、つつある彫り口から10世紀後半頃の造立と思われます。本寺にはまづ同時期に造立された四天王像も伝来しており、平安時代中期頃、この地の仏教・神道が盛んであったさまを我々に知らせてくれています。



重要文化財 木造如来立像 大石中 若王寺蔵 平安時代

白鳳時代から江戸時代まで、各時代の作品が現存

古代に引き続き、中世に入っても盛んな造像は続きました。特に注目されるのは、富士見台の円福院五百羅漢堂に伝わる木造釈迦如来坐像です。円福院は江戸時代に膳所

にあった大円院という天台宗寺院で、本像は黒津の正法寺からそこに移された像といわれています。本像の理知的な相貌や写実的な衣文は、慶派の作風が著しく感じられるもので、この地域の鎌倉彫刻を代表するものです。それ以外にも、各時代の作風を強く表す像が多く残っており、時代を通して常に造像活動が行われていたことがわかります。

このように、大津市の南部の社寺には様々な時代を通して仏像が現存しています。所在調査はまだまだ終わっていませんが、今回の展覧会ではその一部が出陳されます。これらを通して、大津市の豊かな歴史と文化を感じていただきたいと思います。 (学芸員 寺島典人)

第79回企画展 大津南部の仏像―旧栗太郡の神仏―

令和元年 10月12日(土)～11月24日(日)まで
休館日 10月15、21、23、28日 11月5、11、18日
観覧料 一般800円(640円) 高大生400円(320円)
小中生200円(160円)

※()内は前売り 15名以上の団体、または大津市内在住の65歳以上の方、市内在住の障害者の方、市内在住の介護保険の要介護者、要支援者の方の割引料金。



重要文化財 木造釈迦如来坐像 富士見台 円福院蔵 鎌倉時代



高島町駅付近を走る 昭和 44 年 個人蔵

学芸員のノートから 廃線から 50 年 江若鉄道と大津歴博

浜大津と近江今津の間を結んだ江若鉄道は 今年で昭和 44 年（1969）の廃線から 50 年の節目を迎えます。当館では これまで何度も江若鉄道をテーマとした展覧会を行ない そのたびに大変多くの方々にご観覧いただきました。

本稿では これまでの大津歴博と江若鉄道のあゆみについて 振り返ってみたいと思います。

「大津の鉄道百科展」（平成 10 年）

当館で江若鉄道を取り上げた最初の展覧会は 平成 10 年の企画展「大津の鉄道百科展」でした。展示では 江若鉄道だけでなく JR（旧国鉄）京阪 坂本ケーブルなど大津の鉄道の歴史を俯瞰的に紹介しました。

この年は 大津市制 100 周年の年でもあったため 「大津の映画館」や「家族の一世紀」など 近現代の身近な歴史をテーマとした展覧会を催す端緒となりました。また展覧会が夏休み期間中の開催だったこともあり 会場内に鉄道模型を走らせた！ 京阪電鉄石坂線で廃車になった車両の部品をいただいて 運転台を再現したり（当時「ゲーム「電車でGO」が流行していました）と 子どもたちが

楽しめる工夫を初めて加えたのも この展覧会でした。

「ありし日の江若鉄道」展（平成 18 年）

次に行なったのが 平成 18 年の企画展「ありし日の江若鉄道—大津 湖西をむすぶ鉄路（みち）」です。この展覧会では 江若鉄道だけにターゲットを絞った展覧会で JR（旧国鉄）湖西線の開通後、すっかり変貌を遂げた江若鉄道の 51 キロ 26 駅の沿線風景を 運転当時の写真や資料を展示することを目的としたものでした。

展覧会に合わせて みなさんに江若鉄道の資料や写真の提供を呼びかけ 江若OBの方々をはじめ 多くの方々から資料の提供を受けました。この展覧会は 期間中は 1 万 3 千人を超える方々にお越しいただき あらためて江若鉄道の関心の高さに気付かされた展覧会でもありました。また この展覧会は高島市にも巡回することができました。

「江若鉄道の思い出」展（平成 27 年）

そして平成 27 年に開催したのが 企画展「江若鉄道の思い出」です。この展覧会では 時と共に失われていく江若



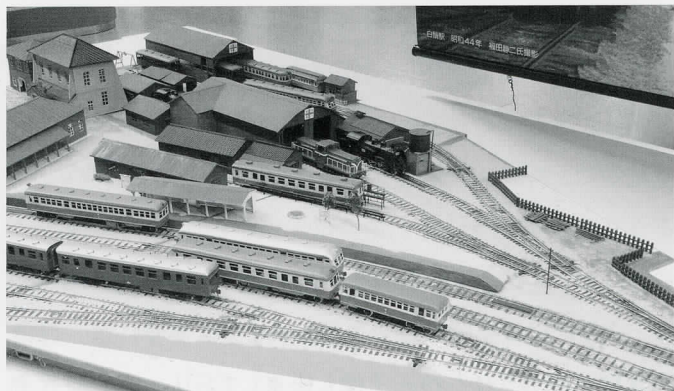
壁いっぱい貼られた江若鉄道の思い出（平成 27 年）

鉄道についての人々の思い出（記憶）に焦点をあてました。会場は江若OBの方々が保存された写真や資料、鉄道ファンとして廃線の日をカメラで追いかけた方の記録、また浜大津や三井寺下駅のジオラマを鉄道模型で再現された方の展示など、個人の思い出が寄り集まった展示となりました。

会場ではみなさんの記憶にも注目しました。スタート時 4メートル近くの壁面をあえて展示せず、お越しいただいたみなさんに、展示を見てよみがえった江若鉄道の思い出をメモにして貼っていただくコーナーを設けたところ、最終日には壁いっぱいメモがありました。担当者冥利につきる出来事でした。

「江若鉄道－思い出の品々－」展（令和元年）

さて冒頭に記したとおり、廃線から 50 年。大津歴博でもなにか出来ないかということで、10 月 1 日から 12 月 1 日までの間、ミニ企画展「江若鉄道 思い出の品々」



展示予定の三井寺下駅のジオラマ 西村雅幸氏制作

を開催します。今回はミニ企画展ということもあり、あまり多くの資料を展示することはありませんが、タイトルの通り、これまでの展覧会を通して当館に集まった江若鉄道関係の品々を中心に展示する予定です。

展示の注目点は、実は展示室の外側にあります。展覧会にあわせて、県内の鉄道について研究されている「びわ湖鉄道歴史研究会」や、前回の展覧会でもお世話になった「同志社大学鉄道同好会OB会（クローバー会）」のご協力を得て、従来のミニ企画展の場所を越境し、エントランスのモータ周辺にまではみ出して、三井寺下駅のジオラマや廃線跡の現在の様子を紹介するパネル展示を計画しています。みなさんのご協力を得ながら、小さいながらも盛りだくさんな内容で構成する予定です。

江若鉄道は来年、創立から 100 年という節目の年にあたります。廃線 50 年と来年の創立 100 年にまたがって、改めて江若鉄道が見直される。そんなスタートになる催しになることを目指しています。（学芸員 木津勝）

活動報告

夏休みおもちゃづくりワークショップ&展覧会 昔のくらし展

平成 14 年から毎年、成安造形大学と連携して開催してきた夏休み子ども向けイベントを、この夏から少しリニューアルし、体験型展覧会と従来のワークショップを組み合わせる形で開催しました。会場では、昭和 30 年代頃を中心とした昔の道具を厳選して展示し、多くの実物資料を手にとって見るができるようにしました。また、成安造形大学の協力により、昔の道具をモチーフにした体験コーナーを設け、クイズシートを使って遊びながら昔のくらしを学ぶことができる展示としました。参加した大学生たちは、展示物の企画制作、さらにはワークショップで制作するおもちゃの考案とい

う課題に熱心に取り組んでくれました。会場では、来場した多くの子どもたちがクイズにチャレンジし、楽しみながら展示を観て回る姿が見られました。



展示のようす（右は学生制作の入って遊べるカマド）

鬼念仏藤娘図 温山良隠筆 江戸時代（18世紀）

鬼念仏藤娘図。大津絵を画題本来の意味付ナ 性格から解放して あたかも物語（フィクション）における登場人物のよう 扱うよう になっていく時代の流れの中で生まれた鉄板カップルです。

このような大津絵画題の派生（スピノフ）作品は 18世紀の初頭 には登場しています。その先駆者となったのは 何と言っても 近松門左衛門の浄瑠璃『傾城反魂香』です。

二次元の絵から三次元化した十種大津絵たちが 特撮映画のよう 突如として出現し ドタバタの丁々発止の活躍をみせて 絶体絶命の主人公のピンチを救う場面は 人々 強烈なインパクトを与えた 違いありません。

これによって 大衆の 大津絵を見る眼は 単なる人気土産物から 大衆芸能（エンタメ）のキャラクタへと変わったものと思われます（後に 大津絵物の舞踊などがいくつも登場しています）。

元々 本来の大津絵自体も 仏教の地獄道 における獄卒の鬼や 民間信仰 における七福神たち 滑稽なシチュエーションの役割を演じさせている絵画ともいえます。

もっとも そこには羽目を外し過ぎないような設定が働いており 風刺の精神や道徳を説く教訓など 真面目な役割を担わせて 単なる娯楽的な消耗品ではないということを謳っていました。しかし それでは満足しなかった人々は 自らの大津絵愛を満足させるための 愛玩用の 趣味の派生大津絵を生産していったのです。そう キャラクタ への溺愛は オリジナルを自分好みへ！メイクさせること になるのです。

まさにこの現象は 漫画のオリジナルと漫画同人誌との関係に通じるものです。そのよう 作者が本来意図しなかった設定のされ方で どんどん派生生産されてしまう点においても 大津絵は漫画の先駆的な存在であったと言えるかと思われます。

ちなみに 本作品は パリ 大津絵展を報道した『ル モント』（フランスを代表する新聞）の紙面を飾った作品です。他にも魅力的な大津絵が多数出品された中で この作品が選ばれたのは 温山の 大津絵愛が 愛の国フランス へと際強くアピールしたのかもしれません。なお 本作品は 10月

12日から開催の企画展「大津絵ーヨーロッパの視点から」に出陳されます。（学芸員 横谷賢一郎）



鬼念仏藤娘図 温山良隠（1748-97）筆

もはや藤娘は、歩き疲れた町娘にすぎない。鬼の恰好も法衣姿ではなく 長着を着流しする旦那の風情。その旦那は町娘に、ここぞばかりに力持ちぶりを発揮できて ご満悦のご様子だ。



鬼念仏藤娘図の三段活用

2次元の絵画→2.5次元の印籠→3次元の根付